

投資事業評価調書（新規）

部課室名	港 湾 課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 澄田 泰造 (建設係長坪田 勝幸)	内線	4440 (4450)
------	-------	---------------------	---------------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	7.0億円
		姫路港改修(特重)	須加地区	内用地補償費	億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
姫路市飾磨区須加			H19	H19	H21
事業目的			事業内容		
<p>ひょうご社会基盤整備基本方針に基づき、姫路港須加地区の旅客船ターミナルにてバリアフリー化整備を行い、高齢者や身体障害者を中心とした利用者の「移動の円滑化」を目指す。相手港である家島港の整備やバリアフリー船の就航が決定しており、早急に整備を行う必要がある。</p>			<p>既存施設に浮棧橋設置 浮棧橋 N = 2基 渡 橋 L = 50m 陸上通路 L = 60m 転落防止柵 L = 150m [負担割合 国5 / 10 県5 / 10]</p>		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性 安全・安心		<ul style="list-style-type: none"> ・ひょうご社会基盤整備基本方針では、福祉のまちづくりの視点から公共交通機関のバリアフリー化を進めており、だれもが容易に外出、移動できる範囲の拡大を目標としている。 ・利用者が安全かつ身体的負担の少ない方法で船舶に乗降できるよう揺れにくい浮棧橋の設置が必要である。 ・交通バリアフリー法では旅客施設のバリアフリー化を施設管理者(自治体)の責務としており、高齢者や身体障害者が安心して利用できる旅客船ターミナルの整備を早急に行う必要がある。 ・また、相手港である家島港やJR姫路駅等の周辺交通機関においてもバリアフリー化整備が進められており、一体的な整備が必要である。 ・現在、分散配置された旅客船4社の係留施設を浮棧橋に集約し、安全性、利便性を向上させる。緊急、救急艇の係留施設としても利用する。 			
(2)有効性・効率性 有効性 効率性		<ul style="list-style-type: none"> ・家島諸島と本土を結ぶ唯一の交通機関であり、年間約71万人の利用者がある。通院等の目的で利用する高齢者も非常に多い。浮棧橋を設置することで、高齢者や身体障害者の単独乗降が可能になる、もしくは乗降時の補助者の負担を軽減することができる。 ・現在、分散配置され、利用者にとって非常に分かりづらい旅客船4社の係留施設を、待合室から至近の場所に集約することで、利便性及び安全性の向上を図る。 ・係留施設の集約により、周辺水域における航行の安全性も向上する。 ・既設施設の改修ではなく、既設施設の前面に浮棧橋を設置する為、施設を有効に利用でき、コストも縮減できる。 ・案内標識や時刻表等のソフト整備は旅客船事業者が行う。 			
(3)環境適合性		<ul style="list-style-type: none"> ・既存の岸壁はそのまま使用し、前面に浮棧橋を設置する。そのため、岸壁撤去時に発生するコンクリート殻等の建設副産物や岸壁前面海域への水質汚濁等の発生も少なく、環境に与える負荷が小さい。 			
(4)優先性		<ul style="list-style-type: none"> ・交通網の基点となるJR姫路駅も視野に入れた周辺交通機関との連携を早急に図る必要がある。 ・初のバリアフリー対応新造船が平成18年9月に就航予定である。 ・家島町と姫路市の合併(平成18年3月)に伴い、新市における交通ネットワークの構築が急がれている。 			